

楽しい地域づくりを応援する「チームおじま」

【活動概要・他でもありそうな課題】

《活動》

公民館や地域づくり協議会の活動のなかで、住民がやってみたい事が沸々と湧いてくる**土壌づくり**をしたり、やりたいことが**叶うよう伴走**したり、地域活動の応援をしている。
※中学生がイチから創りあげる夏祭り、大人の生きがいに繋がるカフェ、マルシェ等、様々な活動を地域住民主体で開催。



「おじまあ〜るカフェ」の様子と、提供される美味しそうなスイーツ



《課題》

- ・人口減少のなか、**活動人口**を増やしたい。
- ・子ども、若者世代、シニア層など**各世代の居場所**が欲しい。
- ・子どもが憧れる**カッコいい大人**、**活躍できる大人**の創出をしたい。

【マネできそうな手順や実例】

公民館や地域づくり協議会の活動で、地域をより良くしたいと願う思いを共有し、自分の得意な事や、やってみたい事を活かす場を創出、「この指とまれ！」方式で募る。

《手順》

- ① 住民主体で地域の現状を学び、そこから未来を描き、課題解決に向けて話し合う。
- ② ①から、やってみたい事、やるべき事を公民館や協議会の活動で企画する。
- ③ 住民が主体的に活動できるよう、**声をかけていく**。**この指とまれ！**
- ④ より多くの方に関わってもらい、成功体験を積み重ね、地域の応援団を増やす。



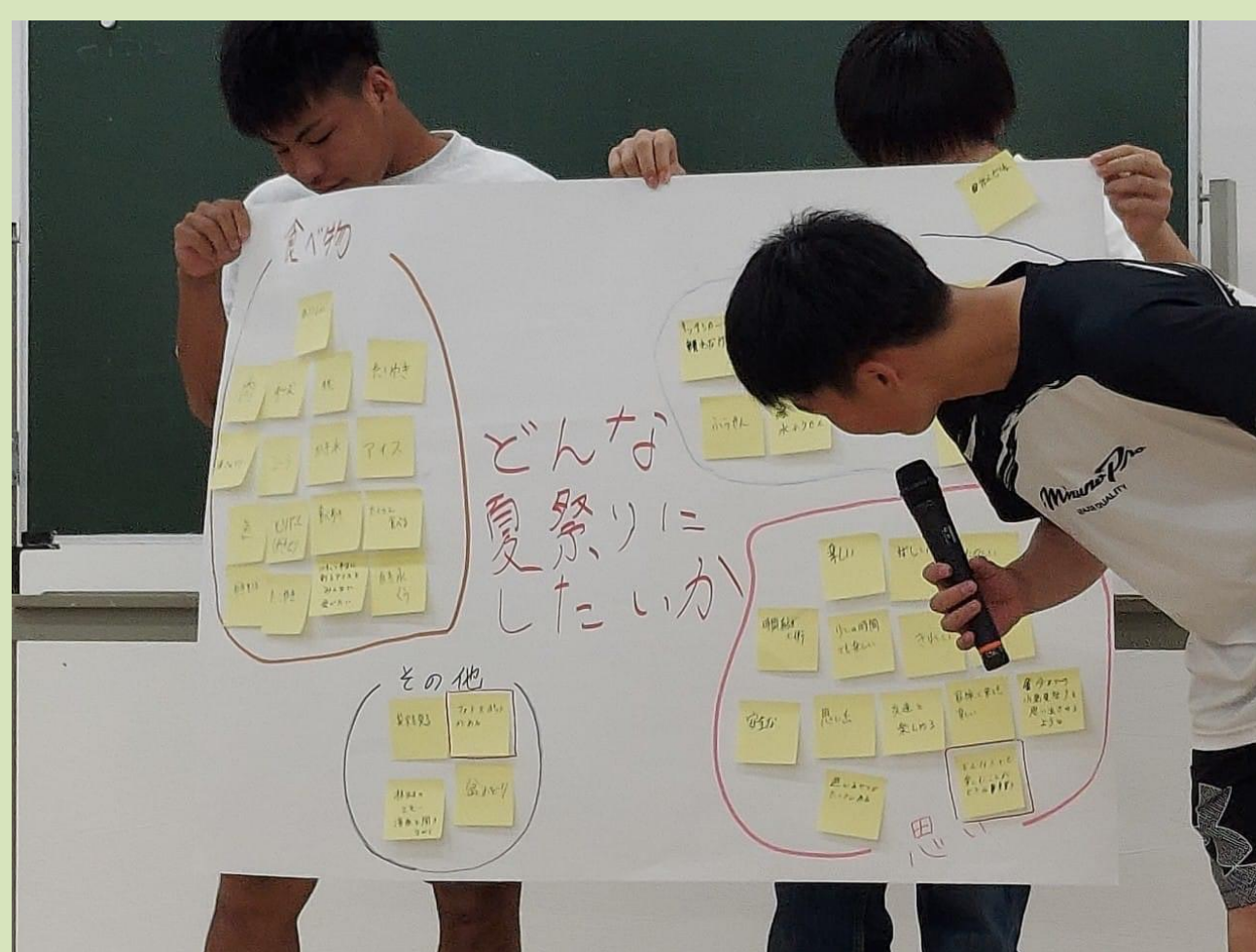
やりたい人！
この指とまれ！

揖斐川町マスコットキャラクター
「かつぱの河太郎」

《マネポイント》

- I 様々な活動を通じて、**やれそうな人に声をかけ**、地域を良くしたいと思う仲間を増やし、**活躍できる場**をつくる。
- II 公民館や協議会が主体とならず、あくまでも**地域住民が主役**になれるように寄り添い、**伴走支援**をすることに特化。

《実例①》 小島夏祭り（中高生応援）



中学生50名が話し合い、深める



トークフォークダンスで対話を楽しむ

地域の中学生在が有志で「リーダー」となり、小島地区の夏祭りを2ヵ月かけて企画・運営する。その際、地域の大人（**チームおじま**）やリーダー経験者である高校生・大学生がサポートし、中学生の「やりたい」を叶える環境を作っている。

《実例②》 おじまあーるLUNCH（子育て世代応援）



芋ほり、餅つき、金魚すくいなど



みんなでおいしいね、限定100食

子どもが豊かな心と体を育むための体験と地元食材を使ったごはんがセットのおじまあーるLUNCH。**親世代の居場所にもなっている**。運営は、子育てが一区切りついた**先輩パパママからなる子育て応援団（チームおじま）**が行っている。人気で、100食がすぐに完売する。

【獲得できた効果】

《実施者から見た効果》

- 地域住民がやりたいことを、発言、行動しやすい地域づくりができています。
- 世代に応じた居場所が多数あり、公民館や協議会の活動を通じて、地域の課題を解決するための実践を継続的に行うことができています。
- 地域の中で「学び合う・育ち合う」関係を紡ぐことで、よりよい人づくり・地域づくりが進んでいる。

《住民・市民から見た効果》

- 小島地区の住民としての生きがいを感じたり、自ら良い地域にしたいと思う仲間が増えた。
- 子ども・若者世代、子育て世代、シニア世代など各世代の居場所ができた。
- 中高生が地域の一員として、自己有用感を高めた。
- 子育てを終えたベテラン世代の大人が、若い世代を助けたいと子育て応援団が結成され、課題解決に寄与した。